

JICA 日系社会シニアボランティアの小澤道子です。アルゼンチンからお便りします。

今回は、浜崎まり子さんを紹介します。

私が初めてまり子さんにお会いしたのは、本当に偶然からです。家の近くで行われた移民祭に浴衣を着て出かけたときでした。道を歩いていると、突然『クリーニング』という日本語の看板が目に入りました。思わず中に入ると、凛として店を切り盛りされている年配の日本人女性がいました。まりさんも久しぶりに見る浴衣姿に喜ばれたのでしょうか。『後ろ姿も見せて』とか『ちょっと娘も呼んで来るわ』などと言って歓迎してくださいました。それ以来、家が近所と言うこともあって、ときどきお邪魔しておしゃべりをしたり、家では干せないシーツのクリーニングをお願いしたりしています。



まりさんは今 86 歳で、鹿児島県出身です。家のリビングの特等席には桜島の写真が堂々と飾られています。そして、行くたびに鹿児島の話になります。鹿児島と言ってもまりさんの生まれた町は、特攻隊で有名な知覧です。戦争中の話になると戦後生まれの私には驚くことばかりです。



まりさんがアルゼンチンに来たのは今から 62 年前。戦争直後、結婚したばかりのご主人と叔父様がいるここサルタに、3年間だけ住もうと決意され、船に乗られました。

サルタに来て始められたのはクリーニング店でした。英語もスペイン語も分からない状態で始められたご商売は、山あり谷ありでしたが、徐々に軌道にのり、お子様にも恵まれました。そして、今は亡きご主人様は日本人会の設立に尽力され、日本人が安心して永久の眠りにつけるようにと日本人墓地も作られました。まりさんのご主人がいなかったら、私が派遣されているサルタ日本人協会も存在していないでしょう。



まり子さんの話を聞いていると『日本人のやさしさと強さ』を感じずにはられません。

そんなまり子さんに突然東京から電話が入りました。『東京テレビ』って知っている？ なんだか知らないけど私の話を毎日1時間ぐらい電話で聞いてくるのよね。」と話しているうちに、「東京テレビの人がサルタに来るっていうのよ。『電話で話したからもういい』って言ってるのに・・・」という話になりました。

先日、本当に東京テレビの若手の取材チームが「こんなところに日本人？」の取材でまり子さんの家にやって来ました。テレビ局の人がいるとき、私も偶然、まり子さんの家にお邪魔しました。そのときのまり子さんは、「テレビ局の人が来る前は本当に頭のこの辺が痛くなってね。」とか「テレビ局の人にお煮しめを作るといったら、娘から『そんなもの若い人は食べない』』と言われた。(サルタでは日本料理の具材は貴重品です。お煮しめは最高級料理!)」「でもね、大根の煮物を作ったら『おいしい、おいしい』と言って食べてくれたのよ」「その人、一人で市場に行って野菜を買ってきてね。『おばさん、これ煮てください』』と言ったの。本当に楽しかったわ」と、それはそれは嬉しそうでした。放送は来年だそうですので、みなさんぜひ見てくださいね。

まり子さんはサルタでただ一人の日本人です。いつまでもお元気でいて欲しいですね。私もサルタにいる間、まり子さんからいろいろな話を伺いたいと思っています。



PS:

まり子さんに『大根持ってく?』といわれ、ありがたくいただきました。アルゼンチンに来て初めてみる大根です(最初で最後かもしれません)。『大根おろしにするとおいしいわよ』と言われましたが、もったいなくてサラダにして食べました